



## ◆第3回 保倉川放水路環境調査検討委員会◆ 開催報告

第3回委員会では、関川水系河川整備計画の変更原案についての関係住民意見聴取（パブリックコメント）で頂いた環境に関するご意見とその対応、放水路整備に伴う環境への影響検討のうち、地元懸念事項に対する検討結果及び今後の対応について、委員よりご意見をいただきました。

開催日時： 令和6年11月1日（金） 15時～17時

開催場所： リージョンプラザ上越

- 内 容：
- 保倉川放水路環境調査検討委員会 規約改正
  - 前回委員会で頂いたご意見とその対応
  - 現在までの環境影響項目の現地調査状況
  - 地元懸念事項に関する現地調査状況
  - 河川整備計画変更原案の関係住民意見聴取（パブリックコメント）で頂いたご意見とその対応（海水、風への対応）
  - 今後の進め方（案）



会場全体



小池委員長挨拶



高田河川国道事務所長挨拶

委員氏名	所 属・役職等	備 考
五百川 裕	上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授	ご欠席
春日 良樹	元妙高高原ビジターセンター 館長	
加藤 史訓	国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	
小池 俊雄	国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	委員長
田中 孝幸	国立研究開発法人土木研究所流域水環境研究グループ流域生態チーム 上席研究員	
富永 禎秀	新潟工科大学 工学部 工学科 教授	
中村 雅彦	上越教育大学 名誉教授	
馬場 吉弘	新潟県立海洋高校 教諭	ご欠席
細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授	ご欠席

※報道関係：新聞社等 4社 一般傍聴：21名

敬称略、五十音順

### 関川水系河川整備計画変更原案に対する関係住民意見聴取（パブコメ） ＜海水への対応、風、地下水の影響関係のご意見の主な内容＞

- 水質の影響については、平常時の放水路に海水（塩水）が存在することへの驚き、塩害による稲作への影響、放水路河口への潮止堰の設置の要望、等のご意見が多数寄せられた。その他、水質対策として保倉川からの分派による放水路内の水の希釈、分派に伴う保倉川の河川流量低下による環境影響に関する懸念
- 風の影響については、影響予測、強風への対策に関する説明・協議の要望、等のご意見
- 地下水の影響については、地下水位低下・塩水浸透への対策の検討状況の確認、塩水浸透のモニタリングの要望、地下水の継続利用の可否に関する懸念、等のご意見

裏面に続きます▶

## 【潮止め堰あり・なしのイメージ図】

- 今回は、頂いた意見を踏まえ、「潮止堰を設置する場合」も対象として水質を検討しました。
- 「潮止堰を設置しない場合」と「潮止堰を設置する場合」の整備イメージの比較は下記のとおりです。
- 「潮止堰を設置する場合」には放水路内への水の流入が限られ、閉鎖的な環境となり、水質が悪化する予測結果となりました。

※令和5年12月時点の放水路の概略検討に基づく施設計画の条件での水質予測シミュレーション結果

		潮止堰を設置しない場合 (現時点の国の想定案)	潮止堰を河口部に設置する場合
イメージ図			
放水路内の水	平常時	海水（塩水） (放水路と日本海がつながっている状態) ・放水路周辺への地下水への塩水浸透防止対策が必要 ・放水路周辺への飛来塩分の影響について検討が必要	淡水（潮止堰は閉鎖） ※他の整備事例では放水路内で水利用有り ・潮止堰と越流堤の間が閉鎖された環境となるため、放水路内の淡水の水質予測が必要
	洪水時	淡水	淡水（潮止堰は開放）

## 【第3回保倉川放水路環境調査検討委員会 委員の主なご意見】

- 第3回委員会では、委員より、地元懸念事項に関する現地調査、地域におけるモニタリングのあり方、海水及び風への対応等についてご意見をいただきました。
- 環境影響項目および地元懸念事項に関する観測は網羅的に実施されており、今後も継続して、データを蓄積し、影響検討・評価に活用することが重要である。
- 放水路整備後は特定外来種等の侵入の可能性も考えられる。環境のモニタリングは、地域住民の協力も得ながら、情報やデータを共有することが有用である。
- 潮止堰を造ると水質悪化の問題があり、放水路内に生息する生物にどのような影響を与えるかが重要である。
- 環境影響は数値だけでは分かりにくいいため、放水路内の生息生物を想定した上で、実際に生じ得る現象や影響のイメージを分かりやすく示し、地域に説明する場を設けながら、丁寧に議論を行うことが重要である。



第3回環境調査検討委員会の資料等の詳細はこちらのコードからご確認ください

## 【海水（塩水）への対応 今後の検討の進め方（案）】

### 第3回 保倉川放水路環境調査検討委員会

- ・環境影響検討項目の予測条件・予測結果
- ・前回委員会（令和5年12月8日開催）のご指摘への対応（風、地下水の影響含む）
- ・パブコメ意見と意見への対応（平常時の放水路に海水が存在することへの懸念）
- 潮止堰を設ける場合における、放水路内の水質予測・評価結果

地元へご説明、ご意見をお聞きする場の開催

保倉川放水路環境調査検討委員会

地元へご説明、ご意見をお聞きする場の開催

今後、最終的な放水路の形状、放水路河口部の施設、保倉川からの分派施設、附帯施設（橋梁、樋門等）等を検討していきます。  
この検討の中で、海水（塩水）への対応についてもさらに検討を進め、「保倉川放水路環境調査検討委員会」よりご意見をいただき、地元の皆様へご説明、ご意見をお聴きしてまいります。